NEWS LETTER vol. 28

研究交流

ポートランド州立大学（PSU）の教職員が来訪されました

報告

アメリカオレゴン州にあるポートランドはまちの魅力やライフスタイルが注目を集め、「全米で最も住みやすいまち」として日本でも関心が高まっていますが、そのまちづくりの中核を担っているのがポートランド州立大学（PSU）です。12月14日に、PSUの教職員2名がKPIに来訪されました。来訪者は、西芝雅美　行政大学院研究科長（Chair,Department of Public Administration）及びパブリックサービス研究・実践センター副所長(Associate Director, Center for Public Service:CPS）と、飯迫八千代 同センター国際プログラムコーディネーター（International Program Coordinator, CPS）のお二人です。お二人は、12月11日、13日に龍谷大学で開催されたCBL（Community Based Learning）に関する国際シンポジウム・ワークショップのために来日。今回は、KPIの企画委員を務める川勝健志准教授（公共政策学部）が昨年度、PSUで在外研究を行った縁で、KPIに来訪されました。

PSUのモットーは、「Let Knowledge Serve the City－都市に知識を－」。お二人が所属するCPSはPSU都市及び公共問題研究カレッジ（College of Urban and Public Affairs）にあり、大学とコミュニティをつなぐ橋渡し役として、多彩なプログラムを実施しています。CPSでは毎年夏に日本の自治体職員を対象にした地方行政人材育成プログラムを開催しており、「まちづくりにおける市民主体のガバナンス」を学ぶ機会を提供しています。KPIとの類似点も多く、今後の交流に向けた有意義な意見交換ができました。（鈴木）

写真は、PSU 西芝准教授、飯迫氏、KPI　川勝准教授、鈴木上席研究員

受託研究

久御山町「ものづくりの苗処」インターンシップ事業の進捗報告

報告

KPIでは、久御山町からの依頼を受け、人材の確保や後継者問題を抱える企業、行政、教育機関等が連携し、「ものづくり」に関心を持ち、製造業への就職等を希望する学生等が就労体験することで、学生のキャリア形成と企業の人材確保・人材育成が連動したインターンシップの仕組みづくりを支援しています。

9月からの事業開始と、新卒者を対象とした人材確保としては、時期的に厳しいスタートとなりましたが、対象者を既卒者にも広げ、関係機関の協力を得て実施したところ、9名の応募が有り、企業訪問、面接を経て、3名が実習に望むことになりました。進捗として、最初の1名が実習受入企業への就職が決定し、事業の成果に結びついたことにサポート側と嬉しく思います。

就職が決定した実習生からは「今回の実習を通じて、実際に会社で働くということは、しっかり周りのことを考え、行動していく必要があるなど、価値観に変化があった。」と就労に対するイメージの具体化が伺え、実習受入企業からは、「インターンシップ実習を実施することで、自社のことを今までと違う視点で見ることができ、社内で取り組めていないところの確認ができた。」など、企業にとっても人材確保に留まらず、組織風土の変革にも繋がる機会になったといったコメントをいただきました。引き続き、それぞれの実習生及び企業にとって良い関係、機会となるようサポートしてまいります。（勝山）

インターンシップの実習の様子

調査研究について

KPIは、地域における政策研究のシンクタンク機能を担う京都府立大学の研究センターとして調査研究活動を行っています。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
京都政策研究センター
（KPI）
〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
Tel & Fax : 075-703-5319
mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

共催企画

第8回地方創生実践塾in綾部市

報告

一般財団法人地域活性化センター主催、KPIが共催で実施した11月23～25日の3日間に渡る宿泊型実践塾が終了し、35名の方にご参加いただきました。KPIからは講師として3名が参加し、さらに本学大学院生命環境科学研究科の長島准教授が登壇しました。

◇講演タイトル

青山公三センター長「森の京都のさらなる活性化策」、宮藤久士教授「新たな木材・木質バイオマス利活用の活性化策」、杉岡秀紀特任准教授「フィールドワークとソーシャルデザイン」、長島啓子准教授「GISを活用した森林・林業の新たな情報戦略」

共催企画

第17回クリエイティブcafé

お知らせ

もっと楽しもう　食と町なみ

1月21日（土）14:30～16:30

場所 伊根町コミュニテイセンターほっと館

会費500円（１ドリンク）

◇ゲスト

金野 幸雄 氏（一般社団法人ノオト代表理事）

向井 久仁子 氏（向井酒造株式会社 杜氏）

◇モデレーター

佐々木 雅幸氏（文化庁文化芸術創造都市振興室長）

【申込・問合せ】文化庁文化芸術創造都市振興室

①氏名②所属③e-mailアドレス・電話番号を記載の上、下記アドレスまで申し込みください。

t-yabe90@mail.pref.kyoto.jp （締切：1/16）

住民主体のまちづくりに向けた支援

受託研究

「久多の夢を語る会」ワークショップの運営を支援をしました

報告

KPIでは、京都市左京区の久多自治振興会からの依頼を受け、「久多の山村生活民具」を活かした地域活性化をテーマに、９月～１１月に３回の「久多の夢を語る会」ワークショップの運営を支援しました。

久多の夢を語る会の様子

久多地域では昭和６１年に山村生活に係る民具５６３点が京都市有形民俗文化財として登録されており、京都市では一昨年から、改めてその名前や使い方の調査をされました。ワークショップでは、地域の方や関係者など各回１５名ほどが集まり、こうした民具の写真を見たり、思い出しながら話をしたりする中で、どのように地元で活用していきたいかについて意見を出し合いました。

その結果、「動画で使い方を残すことが大事」「久多に来た人、子どもたちに体験してもらいたい」「栃の実の皮をむき栃餅にして食べるなど、五感に訴えると印象に残る」などの意見がありました。また、例えば麻を煮る鍋から、川で洗い、糸に紡ぎ、着物を仕上げていた話へと拡がるなど、自分たちで様々なものを作っていた地域の暮らしが浮き彫りになるエピソードも語られました。そこから「暮らしのストーリーが見えるような展示をしたい」、「エピソードを残していくこと自体も大切だ」という意見も出てきました。今後の「語る会」の活動としては、①集めた民具を使って見せる仕組みを作る、②民具のストーリーを発掘するため、聞き書き、映像撮りを早急に始める、③歳時記に合わせてイベントを行い、映像も含め情報発信を行う、④民具を見せる拠点作りを模索する、⑤協力し合って農家民泊や生活を伝え、ＰＲしていく、という５つのことを確認しました。（河西）

受託研究

南丹市胡麻地区の小さな拠点形成事業に取り組みます

京都府南丹市からの受託を受け、南丹市胡麻地域における小さな拠点の形成事業に取り組んでいます。本事業は人口減少や少子高齢化が進む中、日常生活を構成する集落生活圏を維持し、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるよう、「集落生活圏の将来像の合意形成」「持続的な取組体制の確立」「生活サービスの維持・確保」「コミュニティビジネスの実施」などの取組を進めて地域に合った生活サービスを確保するための小さな拠点の形成を目指すものです。

今年度は、拠点施設の必要性の学習や地域のニーズの把握、地域課題の抽出と共有を行うために地域住民を対象としたまち歩きや勉強会、ワークショップを開催します。

地域関連課題等研究「若者パワーを活用した”地域まるごとブランド戦略”による地域活性化」

第2回めざせ!「若人町民100人ミーティング」

11月29日に実施した第2回は「伊根の理想の未来って？」をメインテーマに①昼の部、②夜の部の2部開催でした。昼の部は子育て中の女性を中心に、育児の情報共有や伊根でやってみたい活動について、お菓子をつまみながら和気あいあいと話し合いました。夜の部では、関心のあるテーマに別れて〈伊根にあったらいいと思う活動〉〈それを実現するための場〉についてざっくばらんに話し合い、たくさんの具体的なアイデアが出されました。次回、第3回は「できることってなに？」をテーマに1月21日（土）10:00～12:30に開催します。午後には同会場にて、文化庁主催、KPI共催で第17回クリエィティブcaféが開催されます。

昼の部の様子

KPIリレーコラム

今回は、KPIでアルバイトとして活躍いただいた学部生の加藤さんが登場です！

▲卒論のヒアリング調査で舞鶴市のごみ処理施設を廻った際の一般廃棄物の最終処分場

公共政策学部公共政策学科　４回生
加藤 瞳

昨年度2月からACTR（京都府立大学地域貢献型特別研究）「舞鶴市における今後の地域コミュニティのあり方に関する研究～市民サービスとしての廃棄物政策の見直しを通して～」で行われたアンケート調査の集計・分析を担当してます。舞鶴市民の皆さまから寄せられた、家庭ごみの分別・排出に関して困っている、本当に何とかしてほしいといった赤裸々な思いを、文字を通して受け止めながら分析を進めていくうちに、「舞鶴市の多くの人たちが、このやり方なら頑張れそうだと思えるごみの分別方法・出し方はないだろうか？」と考えるようになり、気づけば自身の卒業論文のテーマとして取り上げていました。一つの政策の決定過程について、実際の政策をピックアップして詳しく分析したのは初めてであり、公共政策学科の学生としてより深い学びを得ています。４年間の集大成として有意義な研究に取り組むことができているのはACTRのおかげで、ここに携わるきっかけを与えてくださったKPIには本当に感謝しかありません。来年度の４月より大学院生となりますが、引き続き舞鶴市の廃棄物政策を取り上げて研究を進めていけたらいいなと思っております。